

豪雪の1月が終わると同時に、きらきらまぶしい日差しと澄み切った青空、美しい山並み、白い世界と美しい大地を楽しませてくれる2月となりました。軒先のつららがお日様で輝き、その中に青い空を垣間見れる光景は最高です。そんな美しい光景を残念ながら、2週間寝たきりの布団の中で、時折眺め、階下からの子ども達の歓声を聞きながら過ごしました。同時に、2月に入ると、風邪の影響で、子ども達も半数となり、何かこの時期のエネルギーの流れを感じておりました。

この間、細川さんのおはなし会で、今回も聴いてしまった「永訣の朝」(宮澤賢治)で、軒のつららを涙して見てしまったり、立つに立てない腰の痛さで我が身を嘆いたりしながら、これではいけないと思い、児童文学の冒険ものを読んだりして、気を紛らわしていました。時折、外へ出て眺める雪と青空には、心が安まりました。

子ども達や皆様、スタッフ達に大変ご迷惑をかけておりますが、腰以外はとも元気ですので、まもなく、一緒にスキーや雪遊びが出来ると思います。それまで、この美しい景色が続いてくれることを祈っています。また、風邪の流れも吹き飛び、全員が元気に揃う事も願っています。



【心躍る体験】 知っている・物質的豊かさと反比例

この2週間、本を読み、前半は河合隼雄さんなどの精神的な書物、後半は、「ロビンソン・クルーソー」「宝島」「神秘の島」「海底2万海里」「長靴下のピピ」などの児童冒険文学などを読んだ。特に児童文学は、ドキドキしながら、早く結末まで行かないと焦って読み惚ける自分がいた。ああ、子どもなんだなあと自分を省みる瞬間でもあった。

大地の朝の掲示板から、その日の予定を伝える文章が消えたのには理由があります。親向けの報告がいつの間にか子ども達の予定知ることになり、「今日はびっくりするくらい面白い処へ冒険に行こう」と言う「でしょ、知ってるよ」と間を入れずに返ってきます。

「明日は散歩に出かけるぞ、いい天気だったらいいな。てるてる坊主でも作るか」と言う「明日は雨だよ、だってお母さんが言っていたもん(天気予報で見たよ)」等の会話も聞いた事があります。明日も今週も一ヶ月先の行事やスケジュールを事細かに知っている事もあります。これらは、楽しみや期待と同時に、知らなければ不安、そして、心躍る体験を、むざむざ放棄してしまう危険性もあります。特に、幼児にとっては、現代において、後者の傾向が強いように思われます。

年に一度か二度しかない家族旅行を、半年も前からドキドキしながら、待ち望んでいたこと。

デパートのレストランで初めて食べたお子様ランチ。

ショーウィンドウで見る憧れ続けたガラスの器のチョコレートパフェ。

お気に入りの品物が届くまで、毎日カタログや写真を見ながら、今か今かと待ち望んでいた日々。

冒険小説を読みながら、手に汗を握り、主人公はどうなるのだろうとドキドキしていたこと。

近所のおじさんに山へ狩猟に連れて行かれ、どこへ行くのだろうと不安と期待が入り交じったこと。

初めて登る山で、景色がどんどん変わり、頂上はどうなっているのだろうとドキドキしたこと。

初めて見た特急列車、東京タワー、羽田空港、新幹線などを、その時の情景とともに今も鮮明に覚えていること。

時効だが、中三で近所のお兄ちゃんに連れられ、初めて長野市内の喫茶店に入り、コークハイを飲んだこと。

高校生になり、初めてデートする日の二週間前からの押さえきれない気持ち。

ドキドキしながらバイクで砂漠を走っている自分を夢見ながら、資料(ネットやテレビでなく)を集める自分。

子供たちが遊ぶ光景をイメージしながら、建設作業に日夜打ち込んだ日々。

最近では、古民家風の建物を頭の中で描きながらの(設計図なし)ののはな文庫の建築など。

つい、私事を並べてしまいましたが、生まれてから今でも、こんな期待やドキドキで過ごしている自分に気がつきません。今でも、お気に入りの物が届くまでは、寝てもさめてもカタログを見ていることがあります。(でも、最近では、ネットですぐに届いてしまうので、こんな体験は少なくなっています)

ドキドキしながら、ひたすらイメージをして、こんな体験ができるのは、原始的な手作り体験しかないでしょうか。

年長児の保護者の皆様にはご迷惑のことでしたが(こんな所でお詫びですが)、下駄作り。当初では、電動工具で私がさっさと切り込みを入れて、削る部分だけを皆でやる計画でした。こんな時に、寝たきりの中で「ロビンソン・クルーソー」「神秘の島」を読んでしまった青ちゃん。何もない無人島で生活道具や道具までを作ってしまった人たちとその幸福感、充実感。何とか布団から這い出して、下駄の設計図を作り、電動工具を使わずにのこぎりとのみで作り、ロビンソン・クルーソーになった気分を味わいました。ああ、これを子供たちと一緒に味わいたかったのが、大地の原点、始まりだったと、改めて思い出した瞬間でした。

それならば、子供の大切重要な環境・模倣対象である大人自らが、これをやらねばと思い、皆様に急遽変更となったわけです。(懲りなく、事前説明を丁寧にせずすいませんでした)本当に私でもできるのかなあという不安よりも、ぜひ、ドキドキしながら、手作りの未知の体験を皆で楽しんでください。(決して、ネットで作り方手順などを知ろうとしなくて結構です。本番でドキドキしてくださいね)

子供たちは、この心躍る体験の機会は極度に減っているように思えます。旅行に行ったり、レストランに連れて行ったり、豪華な食事を用意したり、素敵なプレゼントや洋服を準備したりする中で、子供たちの様子はどうでしょう。その瞬間は喜ぶますが、その物への執着やその後の大切にしたりする姿勢や思いは。

豊富な物や体験がすぐに手に入る豊かな状況、テレビやネットなどで、事前情報や映像が偽体験として「知っている」だけとして入ってくる状況、考えたり迷ったり不安になったり悩んだり立ち止まったり我慢させたりすることはかわいそうなのでという親心から、先回りして子供の行く道を掃いてあげる、事前に教えてあげる、それらは、心躍らせること、すなわち、大人になることへの憧れ、人生、未来への憧れ、生きることへのエネルギーに繋がることだと思います。

いつまでも、ドキドキ、心躍らせる日々を送ることは、若さの秘訣、すなわち、子供でいられるエネルギーを持てますよ。それには、いかにシンプルに、省く、意図的に切る、断る、やらない 生活にシフトしていくことでしょね。

最後にこんなエピソードを。海生まれの父親が、まだ1度も海へ行ったことのない息子を連れて、海へ行った時に会話。父「どうだ、すごいだろう、海ってやつは」 息子「父ちゃん、テレビと同じだね」父親「無言」息子「父ちゃんビールを持ったお姉ちゃんは出てこないね」